

*Crown English Communication I*, pp. 62–63.

**Lesson 5****Food Bank**

Food banks collect surplus food from companies, supermarkets, and farmers and give it to people who need <sup>(1)</sup>help. Charles E. McJilton started the first food bank in Japan, Second Harvest Japan (2HJ).

**—1**

In 1991 I was a university exchange student living in a part of Tokyo where there were many day laborers. When the economy went down, they could not find <sup>(2)</sup>jobs. I often saw them sleeping on the streets. Their lives were not easy. Many men became alcoholics. Stopping drinking is not easy, but people can change their lives; it is never too late.

<sup>(3)</sup>Several years later, I decided to make a self-help center. Without the right “tools” (an address, a phone number, a place to store things and take a bath), it is hard to get off the streets. This center would give people the “tools” to help themselves. However, by 1997 I had found that there was something missing inside of me. I had a lot of “head <sup>(4)</sup>knowledge” about homelessness, but lacked “heart knowledge.”

## Lesson 5—Section 1

### (1) help 図 1, p. 949.

— 図 (㉔ ~s /-s/) 1 ㉔ «人からの/…についての» 援助, 助力, 手伝い, 助け (aid, assistance) «from / with» ▶ Thank you for your *help*. ご助力ありがとうございます/Can I give you some *help with* that? そのことで何かお手伝いできますか/**get [seek] help from** an expert 専門家から助力を得る[求める]/I would never have made it without your *help*. あなたの助けなしでは決して成功しなかったでしょう/He quit smoking **with the help** of his family. 彼は家族の協力でタバコをやめた/He did it for himself, with no *help from* anyone. 彼は誰からの助けも借りず1人でそれを行った。

- ・ コミュニケーションには欠かせない基本的な語であり、会話や作文で使える情報を辞書で調べさせたい。まずは㉔の記号から不可算名詞であることをチェックさせ、第2用例の *some help* に冠詞がないことや、*help* が複数形になっていないことを確認させる。
- ・ 二重山形かつこ« »を使って、*help* とよく一緒に使われる前置詞が示されているので、これを確認させる。第2用例には«…についての»を表す *with* が、第6用例には«人からの»を表す *from* の例が挙げられているので、注意させる。
- ・ 第1用例の会話頻出フレーズ(Thank you for your *help*.)や、太字用例のコロケーションに触れておくと、コミュニケーションに役立つ表現をチェックさせることができる。

### (2) job 図 1, p. 1084.

**job** /dʒɑ(:)b/dʒɒb/ [語源は「口 (mouth)」]

— 図 (㉔ ~s /-z/) ㉔ 1 (収入を稼ぐための) 職, 職業; 勤め口 (1) 職業を表すくだけた語で《ややかたく》は *occupation*. (2) *post*<sup>3</sup>, *position* は支配人などの要職を、*profession* は医師などの専門職をさす; → *vocation*, *trade* 図 2, *work* 1 類義 ▶ Emma **took [found, got] a job** as a reporter at a TV station. エマはテレビ局の記者の職を引き受けた[見つけた, 得た]/**offer A a job** A (人)に勤め口を与える/**create** 12,000 **new jobs** 12,000人分の雇用を新たに創設する/**cut** [(《かたく》) *eliminate*, 《くだけて》 *axe*] 2,000 **jobs** 2000人の人員削減を行う/**apply for a job** at a restaurant レストランの仕事に応募する/**lose [quit] a job** 職を失う[辞める]/a teaching **job** 教職/a **part-time job** アルバイト[非常勤]の職/a **temporary [permanent] job** 臨時の職[定職]/**change jobs** 転職する (1) 具体的な職名に言及する際は *move A from B* などを用い、×*change jobs from A to B* としない; *move lawyer to screenwriter* 弁護士から脚本家に転職[転身]する. (2) AとBにそれぞれ *one, another* が伴う場合は *from* を従えることが可能: *change jobs from one education authority to another* 別の教育機関に転職する)/*be out of a job* ⇔ *be between jobs* 失業中で/have a decent **job** ちゃんとした仕事に就いている/My **job** pays [well] [\$30,000 a year]. 私の仕事は給料が良い[の給料は年3万ドルです] (1「給料のいい仕事」は a well-paid [high-paying, well-paying, good-paying] **job**).

- ・ 教科書本文で次ページにある *work* と同じく「仕事, 職」の意味だが、*work* は不可算名詞であるのに対し、*job* は可算名詞であることを㉔の記号があることから確認させる。教科書本文では *jobs* と複数形になっていることもチェックさせる。
- ・ ㉔には、注意すべき用法に関する注記がある。ここでは *job* が日常語であることや、ほかの類義語(*occupation* など)との違いが解説してあるので参照させる。
- ・ 教科書本文と同じ *find* を使った第1用例をはじめ、太字用例はいずれも *job* を使った表現としてよく使われるものであり、チェックさせておきたい。

(3) several ㊦ 1, p. 1795.

**sev·er·al** /sévr(ə), sév(ə)r(ə)l/ [語源は「別々の」]

— ㊦ (比較なし) ㊦の前で 1 いくつかの, いくらかの, 数人 [個]の (㊦ a few の具体的な数は文脈によるが「少ない」という含みがあるが, several は同じ数でも「多い」という含みがある; ↓ 語法) ▶ I disagree with you for several reasons. いくつかの理由であなたに賛成できません/I met this man several times and we became friendly. この男に何度か会って仲良くなった.

2 (かたぐ) ㊦通例 one's ~ + 複数名詞 それぞれの, 個々の (individual, separate); いろいろな (different) ▶ They went their several ways. 彼らはめいめい別々の方向に進んだ/Several men, several minds. (ことわざ) 十人十色/several kinds of information about the election 選挙に関するさまざまな情報.

語法 several の用法

(1) several は通例 3 ないし 5, 6 ぐらいの数を表し ㊦ 名詞だけに用いられるが, some は漠然とした数を表し ㊦ 名詞にも用いられる.

(2) a few は「少数の」の意味を表すが several は「少ない」の語感を持たない. そのため only several としない ▶ only a few [×several] years ago ほんの数年前に.

(3) 意味が限定される場合, several は前に the や one's を伴うことがある. また, 後に other, more, such などの ㊦ を伴うことも可能 ▶ run the several blocks to the address その住所に至るまでの数ブロックを走る.

- 「いくつかの」という意味をチェックするだけでなく, 具体的にはどのくらいの数を指すのかを調べさせる. ㊦ の解説や 語法 (1) から, several には「多い」という含意があり, 通例 3 から 6 程度の数であることがわかる.

(4) knowledge ㊦ 1, p. 1117.

**knowl·edge** /nɑ́(:)ldʒɪn51-/ (㊦ know- は /nɑ́(:)lɒ; →knife ㊦) [-→know]

— ㊦ ㊦ 1 ㊦しはしは the [one's, a] ~ (学習・経験による) «…についての/…という/…するだけの» 知識 «of [about, on] (wh 節)/that 節/to do» (↓ コーパスの窓); [have(...)] knowledge ㊦ (ややかたく) 知っている, 知識がある (↓ 語法) ▶ Maki has (a) good [has no, doesn't have (any)] knowledge of American culture. 真紀はアメリカ文化のことをよく知っている[全然知らない]/They also had the knowledge of how to use fire. 彼らは火の使い方も知っていた/His knowledge of baseball is far greater than mine. 彼は私なんかよりはるかに野球のことをよく知っている/use [share, show off] one's knowledge 知識を使う[共有する, ひけらかす]/acquire [gain, (よりに)く] get] knowledge 知識を得る (㊦ (く)く)で は learn(...) や learn about ... を用いることが多い; ×learn knowledge としない)/Knowledge is power. (引用) 知は力なり (イギリスの哲学者フランシス・ベーコンの言葉)/A little knowledge [learning] is a dangerous thing. (ことわざ) 少しばかりの知識は危険なものだ; 「生兵(註), 法は大きがのもと」.

コーパスの窓 knowledge の用法

(1) 数え方 複数形にしない. 数えるときは a piece [a bit, an item] of ~ とする.

(2) 不定冠詞との関係 具体的な場面を意識している場合は不定冠詞をとることが多い. また, その際, ㊦ などの修飾語を伴いやすくなる. なお, 不定冠詞を伴うとしばしばひと通りの体系的知識を暗示する ▶ You need to have a knowledge of computers to understand the book. この本を理解するにはコンピュータのひと通りの知識が必要です.

(3) 前置詞との関係 of が続くのが最も普通. about, on の場合, knowledge が the, a を伴うのは (まれ). 科目などには通例 of ▶ have some knowledge of [×in, ×on] English 英語がいくらかわかる (㊦ この場合, about を用いると文法などの周辺の関連事項を意識する言い方になる).

語法 have... knowledge は (ややかたく) で知識の質量・有無について詳述する際に特に好まれる. (く)く)で知識の量・有無に軽くふれる場合は ㊦ の know を用いる方が普通.

- 「[have (...)] knowledge」という文型表示から, 教科書本文の have a lot of ... knowledge が「…の知識が豊富である」という意味になることを確認させる.
- 「コーパスの窓」の(1)(2)には knowledge の可算・不可算用法についての説明がある. 一般的に, 不可算名詞であっても, 具体的な場面が想定されやすい場合には可算になることがあるので注意させる.
- 「語法」の解説に注目させ, 教科書本文のように知識の量(ここでは a lot of)を表す際に用いる表現として, have ... knowledge が使われていることに触れるのもよい.

*Crown English Communication I*, p. 64.

—2

From January 1997 until April 1998, I lived along the Sumida River in a <sup>(1)</sup>cardboard house. This experience changed me. I saw the world with the eyes of a homeless person. I experienced homelessness and saw hungry people every day. To my surprise, my <sup>(2)</sup>neighbors did not lose hope. They helped me in many different ways. Many did some kind of work, such as collecting cans. I kept working in a Japanese company <sup>(3)</sup>without telling my co-workers where I lived. Every day I could see that people are people; it doesn't <sup>(4)</sup>matter if they work in a company or live on the streets.

## Lesson 5—Section 2

(1) cardboard 図, p. 304.

**card-board\*** 英辞林 /kɑ:rdbɔ:rd/

— 図 段ボール紙, 厚紙, 段ボール ▶ a stack [piece] of *cardboard* 段ボールの山[1枚]/hold a *cardboard* sign that says [reads], "... " ≡ hold a *cardboard* sign saying [reading], "... " 「...」と書いたボール紙の表示を掲げる。

— 形 1 ボール紙の[で作られた]. 2 [図の前で] 非現実的な, ありえない(登場人物など).

◆ ~ **box** 段ボール箱 ▶ carry [pack books into] a *cardboard box* 段ボール箱を運ぶ[に本を詰める]. ~ **city** 段ボール街 (ホームレスが段ボール小屋に住む区域). ~ **cut-out** [cut-out 図] (1) ボール紙の切り抜き(絵) ▶ a *cardboard cutout* of the mayor 市長の等身大の切り抜き写真. (2) (本・映画の)非現実的な登場人物.

- 生活語彙として意味を確認させる。教科書本文の *cardboard house* から複合名詞と捉えて、名詞の「段ボール」に導くとよい。ただし, *cardboard* には形容詞用法もあり, *house* を修飾する形容詞として捉えることも可能。
- この語のように, 中学必修 (A ランク), 高校必修 (B ランク) 以下の下位ランク語 (C/D/E ランク) であっても, 日常生活で頻出する語や, 日本の事物のことを発信する際に必要とされる語については, **生活** ロゴを付して用例・解説を増強してある。実際に, 会話長文やオーラルなど, 大学入試にも頻出する語であるし, 英語での発信の際にも役立つ語なので, **生活** ロゴの付いた語は意識的にマスターしておくように指導しておくのもよい。

(2) neighbor 図, p. 1337.

**neigh·bor** (英) -·bour /néɪbər/ (語頭 neigh- の gh は発音しない) [nigh (近く) boor (農民)] ((名) neighborhood)

— 図 (s /-z/) 1 隣人, 近所の人 (上下階の人もさす); (修辭的に/やや古) (助けなどを要する)他の者 ▶ invite all one's *friends and neighbors* to the party 友人隣人を皆パーティに招待する (one's neighbors and friends の語順も時に用いられる) / *Neighbors said* the couple argued loudly and often. 近隣住民によれば, その夫婦は大声でけんかすることが度々あったとのことである / one's *next-door* [upstairs] *neighbor* 隣[上階]の住人 / one's new *neighbor* 新しく越してきた隣人 / run to a *neighbor's house* for help 近所の家へ急いで助けを求める / have a relationship [a close relationship] with one's *neighbors* 近所付き合いをしている[近所付き合いがいい] / Love thy *neighbor* as thyself. 自らを愛するように自らの隣人を愛せよ (聖書より).

- 見出し語の横に, 「(英)-·bour」とイギリス英語式の綴りが記されているので注意させる。辞書にはその語句が使われる場所・場面(使用域)が二重丸かっこ( )を使って示されていることに触れておきたい。
- そのすぐ下に(語頭 neigh- の gh は発音しないと, 間違いやすい発音についての注意が記されているのでチェックさせる。

(3) without 副 2a, p. 2272.

**2a** …せずに, …なしに; 『without doing』 …しないで (→INSTEAD of A 第2例) ▶ We had been sitting there for a long time *without speaking*. 私たちは長い間口もきかずにそこに座っていた/You've been driving my car *without telling me*. 君は一言もなしに私の車を運転していたね/*without* [an explanation [a reason] 説明もせず[理由もなく]/She ran away with Bob *without so much as a note*. 彼女は何1つ書き残さず, ボブと駆け落ちした.

- ・ 『without doing』 という文型表示から **2a** に導く。「…しないで」という意味になる場合, 動詞が動名詞になることを第1用例や, 教科書本文と同じ *telling* を使った第2用例で確認させる。

(4) matter 動 1a, p. 1238.

— 動 (～s /-z/; ～ed /-d/; ～ing /-t(ə)rɪŋ/)

— 自 1 [[主に否定文・疑問文・条件文で] a [it matters (to A) wh 節/that 節] (A<人>にとって)…か[…ということ]が重要である, 影響[関係]がある; [it matters (to A) if [whether]… (or not)] (A<人>にとって)…かどうかが重要である (1 進行形・命令文にしない; →whether 1 類義) ▶ *It doesn't matter much (to me) what you think*. 君が何を考えようと(私にはあまり関係はない/*It doesn't matter whether he comes* [× will come] *or not*. 彼が来ようが来まいが関係ない (1 後続する whether, if, wh 節中は未来の事を表していても will, would は用いない)/*It mattered a lot who the director was*. 監督が誰であるかがいそう重要であった/*It didn't matter that he was seventy*. 彼が70歳である事は問題ではなかった.

- ・ 『it matters (to A) if [whether] ... (or not)』という文型表記にまず注意を促し, 教科書本文では否定文になっているので「…ということとは重要ではない」という意味になることを確認させる。さらに, if [whether]の角かっこ[ ]は言い換え可能 (if と whether のどちらでもよい)を表していることにも触れられるとよい。
- ・ 続いて, この文型表示のうち, 丸かっこ( )で囲った部分は省略可能な要素を示していることに触れ, 教科書本文では「to A (A<人>にとって)」の部分がないことをチェックさせる。加えて, 教科書では *it doesn't matter if ... or not* ではなく, *it doesn't matter if (they work in a company) or (live on the streets)*と, 対等の要素を *or* でつないであり, 「会社で働いていようと路上生活をしていようと, そんなことは問題ではないのです」という意味になっていることを確認させる。
- ・ 単独で, あるいは *about* を伴って会話で用いられる *it doesn't matter* (大したことはありません)が 成句に出ているので触れておくとよい。

*it doesn't matter*\* 《話》 (1) 大したことはありません, «…については» 気にしないでください, かまいません «*about*» (↑ 語法) (2) ▶ “What was it?” “Oh, nothing. (*It doesn't matter*.” “何だったんですか” “ああ, 何でもありません。大したことはありません) (1 三バツ)《くだけて》では主語の *it* が省略されることがある)/*It doesn't matter about the money*. お金のことは心配しなくていい。 (2) (2者の選択を聞かれて) どちらでもかまいません。

*Crown English Communication I*, p. 65.

The government reports that more than 15 percent of Japanese people live below the relative poverty line. For the elderly this number is more than 20 percent. <sup>(1)</sup>Approximately 2.3 million people in Japan do not have enough safe, nutritious food each day. I remember a time <sup>(2)</sup>when we received a call from a single mother who had two small children. That day she had to ask the older child to give up a meal so that the smaller one could eat. Such things happen every day, even in Japan.

(1) approximately ㉮, p. 100.

**ap·prox·i·mate·ly**\* /əpr(ə)ksɪmətli-prɔks-/ ㉮ 《ややかたく》(数量・時・尺度などの誤差は無視してよい程で) **おおよそ**, 概ね, …内外[前後] (《略》approx.; →about ㉮ **類義**); ほぼ, 概して《等しい・あらゆるなど》(→almost) ▶weigh *approximately* 15 grams **論説** 約 15グラムの重量がある (㉮ 《くだけて》では weigh 15 grams, *approximately* のようにコンマの後に添えることがある)/have an *approximately* equivalent size おおよそ同サイズである。

- ・ 略号(approx.)についての情報が、訳語に続いて《略》というロゴで示されているので注意させる。
- ・ 「おおよそ, ほぼ, 約」という意味なので, 生徒の知っている about との違いを意識させたい。「→about㉮**類義**」という参照指示から, about の副詞にある **類義** コラム(p. 8)をチェックさせて, about より正確な値を示すことや, 《主に書》という使用域表示から, 書き言葉でよく用いられることを確認させる。

**類義** about と around, roughly など

about は正確な値を示すことを避ける最も一般的な語。around は周辺を表すことからおよその数量を想像しながら示す語で, 《くだけて・主に英》では (a)round about の形で用いられることもある。roughly は正確であろうとするより, とりあえずおおざっぱな値を示しておこうという意図を暗示する。approximately は正確な値に非常に近いことを強調し, 誤差は実質上無視してもよい程度であることを暗示する。《主に書》や専門的文脈で好まれる。ほかに概数を示す表現には ... or so<sup>1</sup>, MORE or less, GIVE or take A, in the REGION of A, circa などがある。

- ・ 辞書の第 1 用例のように, 大学入試の論説文や, ニュース記事・ビジネス文書など, 論理的英文に特徴的に表れる表現には, 用例に**論説**ロゴを付してある。上記例なども実際にセンター試験や私大入試などの長文読解問題に非常によく出てくる表現なので, 生徒には「**論説**ロゴの付いた用例はきちんとマスターしておくこと」と指導しておくのもよい。

(2) when ㉮, p. 2241.

**【関係副詞】 2** [[制限用法] …する[した]〈時・日など〉(→which 3 **文法**) ▶There are days *when* I just feel like giving up. やめてしまいたくなる日 that たびある (≡《かたく》) … days on which I.../Do you know the day *when* he will come back? 彼が帰ってくる日を知っていますか (㉮ 時を表す形容詞節中は, 未来のことには will を用いることも可能 ↓㉮ 1 a)/Tomorrow evening is the only time *when* I can see you this week. 明晩ぐらしか今週お会いできる時はありません (≡《かたく》) … the only time in [at] which I.../It happened **at a time when** I was living alone. 1 人暮らしをしている時のことだった。

コーパスの窓 ㉮+which による言い換え

《かたく》では ↑2 の用例のように ㉮ を伴う which で言い換えられるが, ㉮+which は全体の 1 割程度で, when を用いる方が圧倒的に普通。

**語法**

(1) that による言い換え 代わりに関係副詞 that を用いることができるが, that は省略可能 ▶Do you remember the time (*that*) we all went to Guam? みんなでグアムへ行った時のこと覚えているかい。  
 (2) 先行詞の省略 the time, the day のように漠然とした時を表す先行詞はしばしば省略される (↓㉮ 2, →that ㉮ 6 **文法**) ▶That was (the period) *when* I lived here. その頃に私はここに住んでいた/Sunday is (the day) *when* I'm quite free. 日曜日はかなり時間にゆとりがある。

- ・ サインポスト(隅付角かっこ【 】で表示)の**【関係副詞】**を参照させ, その機能を確認させる。その後, 先行詞としては教科書本文の time に加えて, day もよく用いられることを用例から発見させる。
- ・ 第 1, 第 3 用例には前置詞+which を用いた言い換えが(≡)の記号に続いて示されているので確認させる。前置詞+which を用いた表現は, 二重丸括弧で囲って《かたく》と示されているので, かたい表現であることに注意させる。

*Crown English Communication I*, p. 66.

—3

The first food bank started in the U.S. in 1967. In Japan, we started our activities in 2000 and became an NPO called Second Harvest Japan in March 2002. Our name comes from the <sup>(1)</sup>idea of “harvesting” surplus food.

We not only give food to people who need it, but we also help companies save money. In 2010, we “harvested” over 500 million yen <sup>(2)</sup>worth of food.

## Lesson 5—Section 3

(1) idea 図 1b, p. 1002.

**b** [[the idea of A/doing] A〈物・事〉[…する]という考え (1) of は同格を表す; →that 図 2 [文法]. (2) 時に of doing の代わりに to do や for doing が用いられる); [[the ~ that 節] …という考え ▶How do you like the idea of a city with no cars? 車のない都市という案をどう思いますか/I don't like the idea of being [that I am] forced to do it. それをするよう押しつけられるのはいやだ (1) [トバ] like, love, hate などの後では通例 to do や for doing は用いない/I've been toying with the idea of changing my car. 車を買替えようかと思っている/The idea of taking a trip with Kerry makes me sick. ケリーと旅行すると考えるといやになる。

- [[the idea of A/doing] という文型表示から, 1b の「A[…する]という考え」に導く。その上で, A ないしは doing が, idea の中身を表す同格関係にあることを確認させる。of が同格を表すことは 1b にも記されているので注目させる。the を伴うことにも注意を向けさせたい。文型表示のスラッシュ(/)は, 「A と doing のいずれも可能」という選択肢を表すことにも触れておきたい。
- of を使った同格節としては, 第 3, 第 4 用例がわかりやすいので確認させる。
- [[the ~ (that)節] の略式文型表示からもわかるように, idea に続く同格の表現は of 以外に that 節を使っても表すことができるので, 第 2 用例で確認させる。the idea of being [that I am] forced ... に使われている( )の記号は, 角かっこ[ ]を使った言い換え表現の区切りがわかりにくい場合に, 「言い換える開始点」を示すのに用いられているので注意させる。

(2) worth 図 1, p. 2287.

— 図 1 1 [[A(s) ~ of B] A〈ある金額〉相当のB〈物〉▶cause [\$15 billion [15 billion dollars] worth of damage to the Alaskan coast アラスカ沿岸に150億ドル相当の損害を与える。

2 [[A(s) ~ of B] A〈ある期間〉分のB〈食料など〉, A〈ある期間〉かかるB〈仕事など〉▶twelve days' worth of food and water 12日分の食料と水。

- 教科書本文の 500 million yen という金額を表す語句を頼りに図 1 に導き, 「5 億円相当の食糧」という意味になることを理解させる。
- [[A(s) ~ of B] の用法指示から, A が所有格になる場合があることに注意を促す。idea の項でも触れたが, 言い換え可能な部分の始まりを示す記号( )が用例で用いられているので, ここで紹介することもできる。
- 1 と同じ構文で, 2 のように「ある期間分の物」という意味にもなるので, 用例を含めてチェックしてさせておくのも効果的。

*Crown English Communication I*, p. 67.

Companies saved 80 million yen because they did not have to throw away the food that they could not sell.

Trust is very important in our work. When you have trust, food and financial support naturally <sup>(1)</sup>follow. We never go to a company and say, “Can you give us food or money?” We think of them as equal partners. We tell them about our activities and ask them, “Is there <sup>(2)</sup>anything we can do together?”

NPO's are still new in Japan. As NPO's grow and become more professional, people will see that they can play a bigger <sup>(3)</sup>role in society. Just wanting to do something good is not enough. The important thing is how you run your NPO. Second Harvest Japan is unique because we deal with both business and welfare.

(1) follow ㊦㊧ 3, p. 774.

2 (人が) «…として» (人)の跡を継ぐ «as» ▶He followed his father as a director. 彼は父の跡を継いで役員になった。  
 3 (出来事が) (出来事・期間)の後[次]に起こる, 続く; [(~(up) A with B)] A (事)の後にB (事)がさらに続く ▶Misery follows war. 戦争後は悲惨なことが続く/The lamb stew was followed by a delicious cake. 仔羊の煮込みの後においしいケーキが出た/Read the passage below and answer the questions that follow. 論説(設問文で)以下の文章を読み, 続く設問に答えなさい。

- 動詞の項目では, 主語にどのようなものがあるのかという「選択制限」についての情報が山形かっこ ( ) を使って示されている。教科書本文では主語が事(food and financial support 「食料や経済的支援」)であることから, 自動詞用法の中の語義 2 か 3 になることをまず確認させる。
- 教科書本文は単に出来事の順序を示しているのではなく, 「信用があれば, 食料と財政的支援はあとから自然についてきます」という意味になる。よって, ここは語義 2 ではなく, 語義 3 になることを理解させる。
- 辞書の最終用例にも論説ロゴがあるが, これは一部の大学入試や資格試験でよく見かける「英問英答」の設問文の用例である。折に触れてこういった表現も理解しておく, 受験の際に戸惑わずに済むので, 生徒に注意を促しておきたい。

(2) anything ㊦ 2, 90.

2 [疑問文・条件文で] 何か ▶Is there anything else I can do for you? 君のために僕ができることが何かほかにありますか/Anything else? ⇨ [Is there [Will there be] anything else? ほかに何かご用件[ご注文]は?/Do you plan to do anything special tomorrow? 明日特別に何かするつもりですか/What will become of my daughters if anything happens to me? もし私に何かあったら娘たちはどうなるだろう/If there's anything you need, don't hesitate to ask. 《丁寧に》何か必要なものがあれば遠慮なくおっしゃってください/Anything new down your way? 《話》そちら何か変わったことはありませんか。

語法 ▶物を(好意的に)勧めたり, 肯定的な応答を期待する場合は something が普通 (→ something ㊦ 1 b) ▶Would you like something to drink? 何かお飲みになりますか。

- [[疑問文・条件文で]]の用法指示から 2 に導き, 第1用例が教科書本文とよく似ているので確かめさせる。コミュニケーションに役立つ表現が出ているので, 他の用例にも触れておきたい。

- 下にある語法コラムを参照させ, anything ではなく something を用いる場合についての解説をチェックさせる。特に「肯定的な応答を期待する場合は something」になる点に注意させる。教科書本文は「企業に対して支援を依頼する」という文脈になる。最初から肯定的な返答を期待するのは失礼になるので, something より anything が適切であることを理解させたい。

(3) role ㊦ 1, p. 1702.

role ㊦, rôle /roul/ (roll と同音)  
 [ <フランス; (役者のせりふを書いた)巻物 ]  
 ㊦ (㊦ ~s /-z/) ㊦ 1 «…における/…としての» (人・物の) 役割, 役目, 任務 «in/as» ▶play [an important [a key, a major, a leading] role in the victory 論説 勝利に重要[主要]な役割を果たす/the role of women in society 社会における女性の役割/a role reversal (特に男女間の)役割交替。

- 教科書本文でも使われている重要コロケーションの play a ... role が太字用例になっているので確認させる。role を修飾する典型的な形容詞が多数用例に挙がっているので, 注意させる(important, key, major など)。
- 辞書の第1用例のように, 大学入試の論説文や, ニュース記事・ビジネス文書など, 論理的英文に特徴的に表れる表現には, 用例に論説ロゴを付してある。上記例なども実際にセンター試験や私大入試などの長文読解問題に非常によく出てくる表現なので, 生徒には「論説ロゴの付いた用例はきちんとマスターしておくこと」と指導しておくのもよい。

*Crown English Communication I*, p. 68.

—4

“Helping” others is not easy. Sometimes we send the wrong message when we say, “Can I help you?” We mean well, but we sometimes send the message, “You are not OK; you need to change.” I would <sup>(1)</sup>rather think of it this way: “I see you have a flat tire on your bike. I have some tools and patches here if you want to use them. I can also stay around while you fix your bike if you want <sup>(2)</sup>company.” This is what I learned from my experience along the Sumida River.

## Lesson 5—Section 4

(1) rather 図 2a, pp. 1627–28.

**2 a** [would rather do (than do)] (…するより)むしろ…したい, …した方がいい (1) (《くだけた話》ではしばしば 'd rather の形で。 (2) prefer to do (rather than (to) do) と違って to do は通例従えないが (《くだけて》では《まれ》に would rather do than to do の形をとることがある; →prefer ㊦ 1 b. (3) had rather ... は《まれ》) ▶I would rather stay at home than go with him. 彼と一緒にいくくらいならうちにいた方がいい/I'd rather have been alone. 私は一人でいれば[いたら]よかった (1) 間違った選択に対する後悔を表す; 後悔の気持ちをより強く示すには I wish I had been alone. という)/Would you rather work in movies or in television? テレビと映画ではどちらの仕事がお好きですか。

**コミュニケーション** 控えめな拒絶

A: Where are you going today?  
今日はどこへ行くの。

B: I'd rather not say.  
(どちらかというと言いたくないわ。

1 would rather の直後に not を伴って「(むしろ)…したくない」の意を表す。

X: How about another cup of tea?  
お茶をもう1杯いかが?

Y: No, thank you. I'd rather not.  
いや、結構。遠慮しておきます。

1 相手の気持ちを思いやった控えめな断り方 (→mind ㊦ 1 b 語法)。

**語法** ㊦㊦ rather do than の後は通例原形不定詞が続くが, would rather の後に進行形が続く場合は, doing が好まれる; →make ㊦ 9 文法 ▶I'd rather be speaking than sitting. 座っているより話をしている方がいい。

- [would rather do (than do)] の文型表示から 2a に注目させる。1(1)にある「(くだけた話)では would は省略形になることもある」という内容の記述も確認させたい。
- 典型的な形として, 教科書本文とも似ている第1用例をチェックさせておく。さらに, **コミュニケーション**には rather を用いた丁寧な断り表現が出ている。会話の重要表現として触れておくといよい。

(2) company 図 2, p. 405.

**2** ㊦ 同伴, 同行, 同席, 一緒にいること (companionship); 交際, 付き合い; 仲間, 連れ ▶I enjoy her [my own] company. 彼女と一緒にいると楽しい[私は一人であるのが好きだ]/Dave is good [poor, boring] company. デイヴと一緒にいて楽しい[楽しくない, 退屈な]男だ/His mother doesn't like the company he keeps. 母親は彼が付き合っている連中を嫌っている/Please come over with me. I could use the company. 私についてきてくれませんか。誰かと一緒にいたいのです。

- 教科書本文が want company と無冠詞単数形になっているので, ここでは company が不可算名詞として使われていることをまずチェックさせる。辞書を引いて㊦になっている「会社」の意味ではなく, 「同席; 交際; 仲間」を表す 2 の㊦用法を参照させる。教科書のこの部分は, 「誰かと一緒にいたい」という訳になることも確認させておく。

*Crown English Communication I*, p. 69.

My work is my “<sup>(1)</sup>vote” on what kind of society I want to live in. Food is also a “tool.” I want to live in a society where there is a way to get these “tools” to the people who need them. I don’t think of my work as “helping” people, but rather matching up surplus food with those who can use it. I am passionate about making these matches. It is what makes my job so much <sup>(2)</sup>fun.

(1) vote 動① 1, p. 2200.

- 動 (～s /-ts/; ～d /-id/; voting)
- 自 1 (人・組織などが) «人・提案などに賛成の/…に反対の» 投票をする «for, in favor of/against»; «議題などに関して» 投票を行う «on, (まれ) about» (1) vote for, vote on は受け身可 ▶have the right to vote 投票権を持つ/vote for [against] the plan その計画に賛成[反対]票を投じる/The award is voted on by sportswriters. その賞はスポーツ記者により投票される。
- 2 (くだけて) [通例一人称で] «…を» 良いと選ぶ «for» ▶I vote for the new rating system. 新しい評価法がいいと思うよ。

- 「票を投じる」ことを表す vote だが、一緒に用いる前置詞による用法の違いを説明したい。二重山形かっこ« »を使って vote と一緒に用いる前置詞が示されているが、「人・提案などに賛成の»投票をする」という場合は for, in favor of が使われることをまず確認させる。さらに、太字になっている for の方がよく使われることにも触れておく。「…に反対の»投票をする」場合はスラッシュ( / )で区切られた against が使われることも確認させる。
- 教科書本文には on が使われているので、「議題などに関して»投票を行う」場合に当たることをチェック。同じ意味だが、使われることがまれな about については、二重丸括弧に囲って(まれ)と表示されていることにも注意させる。

(2) fun 名 1a, p. 811.

**fun** 名 /fʌn/ [語源は「ばかにする」]  
(形) funny

- 名 1a 楽しみ, おもしろみ; ふざけ, 慰み ▶It would [should] be [a lot of [great, good, enormous] fun. それはきつとおもしろい/have fun with the movie 映画を楽しむ/She's very cheerful and full of fun. 彼女はとても元気で愉快な人だ/What fun! とてもおもしろいわ; なかなかおもしろそうだ/That's not my idea of fun. それは私の趣味ではない/Have fun! 楽しんでよ; がんばってよ/This is so much fun. これはすごくおもしろい (1) This is much fun. は (まれ) →much 語法 (2) (非標準) では fun を 扱いて This is so [very] fun. ということがある/It's no [not (much)] fun. ふざけるな; つまらない/I had fun going around. あちこちを回って楽しんだ/It sounds like fun. それは楽しそうだ/It was just a bit of fun. ちょっとふざけただけだ/A is half the fun. A (事)そのものが楽しみの半分だ。
- まず fun は不可算名詞であり、辞書には 扱 と記されていることに注意させたい。教科書本文の so much fun は第7用例で太字になっているので確認させる。
- よく使われるコロケーションとして、have (第2, 6, 9用例)について、あるいは教科書本文の so much 以外の程度を表す表現(第1, 3, 8, 11例)などにも言及すると fun の使い方がよくわかって効果的。